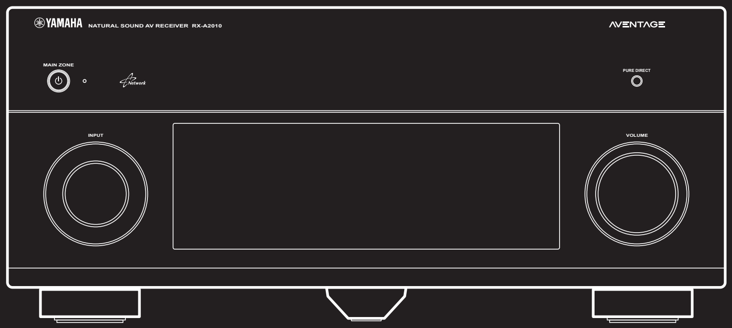
YAMAHA

AVレシーバー

RX-A2010
かんたん設置ガイド



ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、
まことにありがとうございます。

本書では、9.1チャンネルシステムを設置して、
本機でBD/DVDのサラウンド音を再生するまでの手順を案内します。
詳しい説明は、別冊の「取扱説明書」をご覧ください。

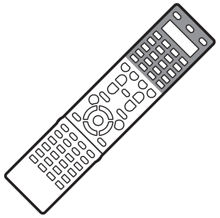
本書と「取扱説明書」のPDF版を以下のウェブサイトからダウンロードできます。

http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/

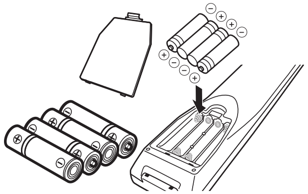
1 準備する

付属品を確認する

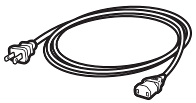
すべて揃っていることをお確かめください。



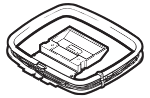
☐ リモコン



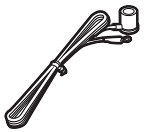
☐ 単4乾電池（4本）
正しい向き（＋と－）でリモコンに入れてください。



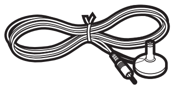
☐ 電源コード



☐ AMアンテナ



☐ FMアンテナ



☐ YPAO用マイク

☐ 取扱説明書

☐ かんたん設置ガイド（本書）

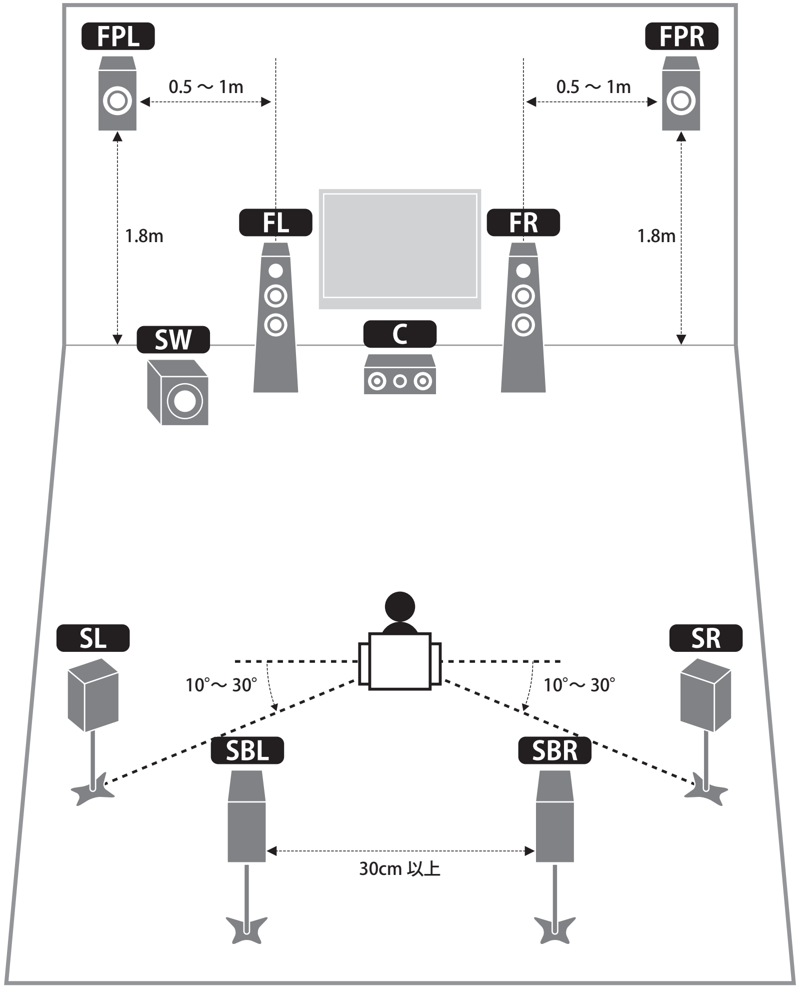
必要なケーブル

本書の説明どおりに接続する場合、以下のケーブルを別途ご用意ください。

☐ スピーカーケーブル（9本）
☐ HDMIケーブル（2本）
☐ モノラルピンケーブル（1本）
☐ 光デジタルケーブルまたはステレオピンケーブル（1本）
　※ テレビがARC対応の場合は不要

2 スピーカーを部屋に配置する

下図を参考に部屋にスピーカーを配置してください。
9.1チャンネル以外のシステムでお使いになる場合は「取扱説明書」をご覧ください。



- FL フロントスピーカー（左）
- FR フロントスピーカー（右）
- C センタースピーカー
- SL サラウンドスピーカー（左）
- SR サラウンドスピーカー（右）
- SBL サラウンドバックスピーカー（左）
- SBR サラウンドバックスピーカー（右）
- FPL フロントプレゼンススピーカー（左）
- FPR フロントプレゼンススピーカー（右）
- SW サブウーファー

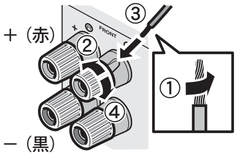
3 スピーカー/サブウーファーを接続する

- スピーカーはインピーダンスが6Ω以上のものをお使いください。
- サブウーファーはアンプ内蔵のものをお使いください。
- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。また、サブウーファーの電源を切ってください。
- スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、本機の金属部に触れたりしないようにしてください。本機やスピーカーが故障する原因となります。スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入れると、前面ディスプレイに「CHECK SP WIRES」と表示されます。

スピーカーケーブルを接続する

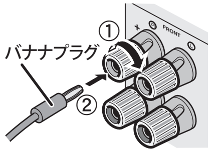
通常スピーカーケーブルは2芯（＋と－）で1本になっています。片方で本機とスピーカーの－（マイナス）端子どうし、もう一方で＋（プラス）どうしを接続してください。色で区別されている場合、黒を－（マイナス）側、もう一方を＋（プラス）側と決めておくと間違わずに接続できます。

① ケーブル先端の絶縁部（被覆）を10mmほどはがし、芯線をしっかりとよじる。
② スピーカー端子をゆるめる。
③ 端子側面（右上または左下）のすき間にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。
④ 端子を締め付ける。

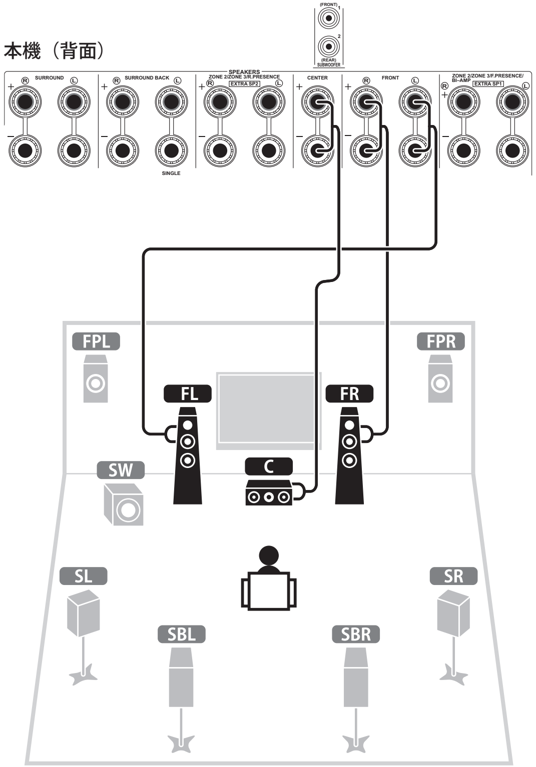


バナナプラグを使用する場合

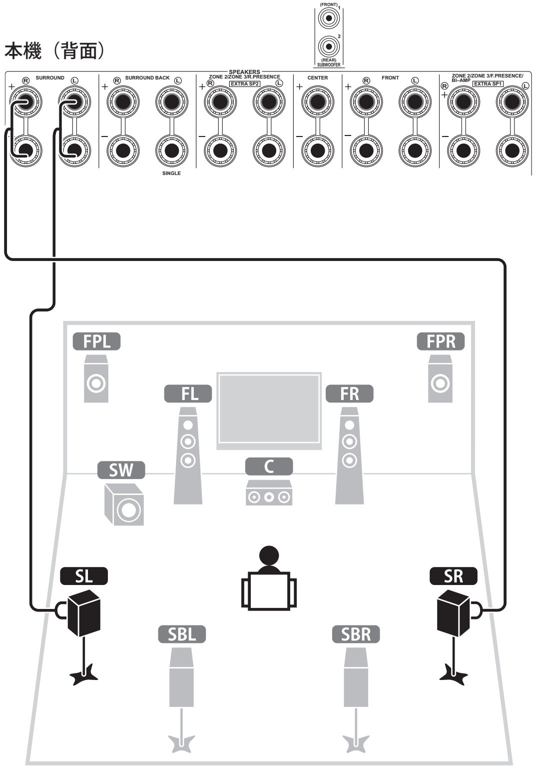
① スピーカー端子を締め付ける。
② 端子にバナナプラグを差し込む。



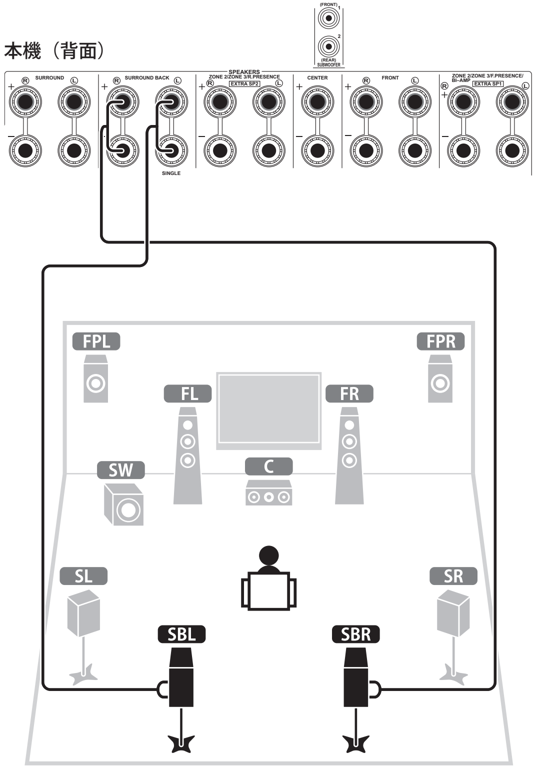
1 フロントスピーカー（FL/FR）をFRONT（Ⓛ/Ⓡ）端子に、センタースピーカー（C）をCENTER端子に接続する



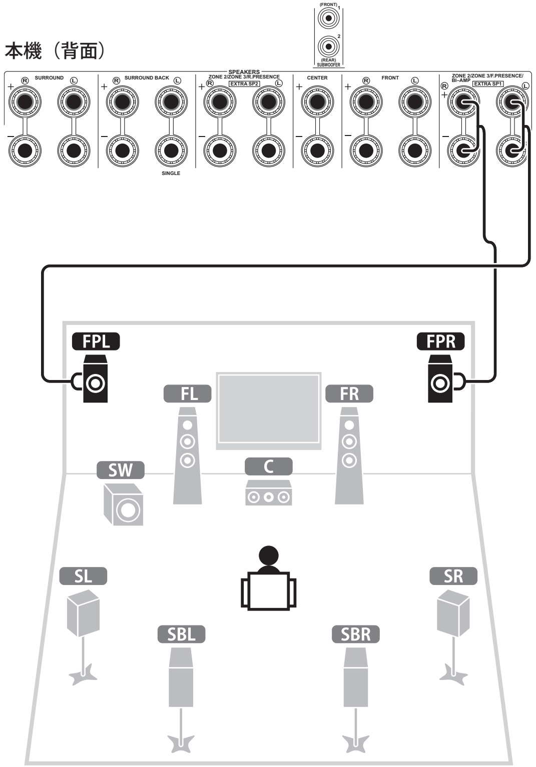
2 サラウンドスピーカー（SL/SR）をSURROUND（Ⓛ/Ⓡ）端子に接続する。



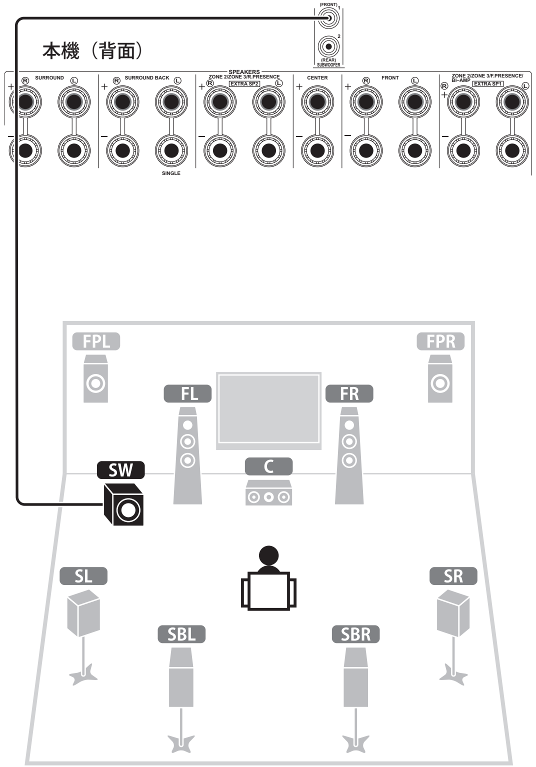
3 サラウンドバックスピーカー（SBL/SBR）を
SURROUND BACK（Ⓛ/Ⓡ）端子に接続する。



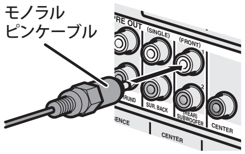
4 フロントプレゼンススピーカー（FPL/FPR）を
EXTRA SP1（Ⓛ/Ⓡ）端子に接続する。



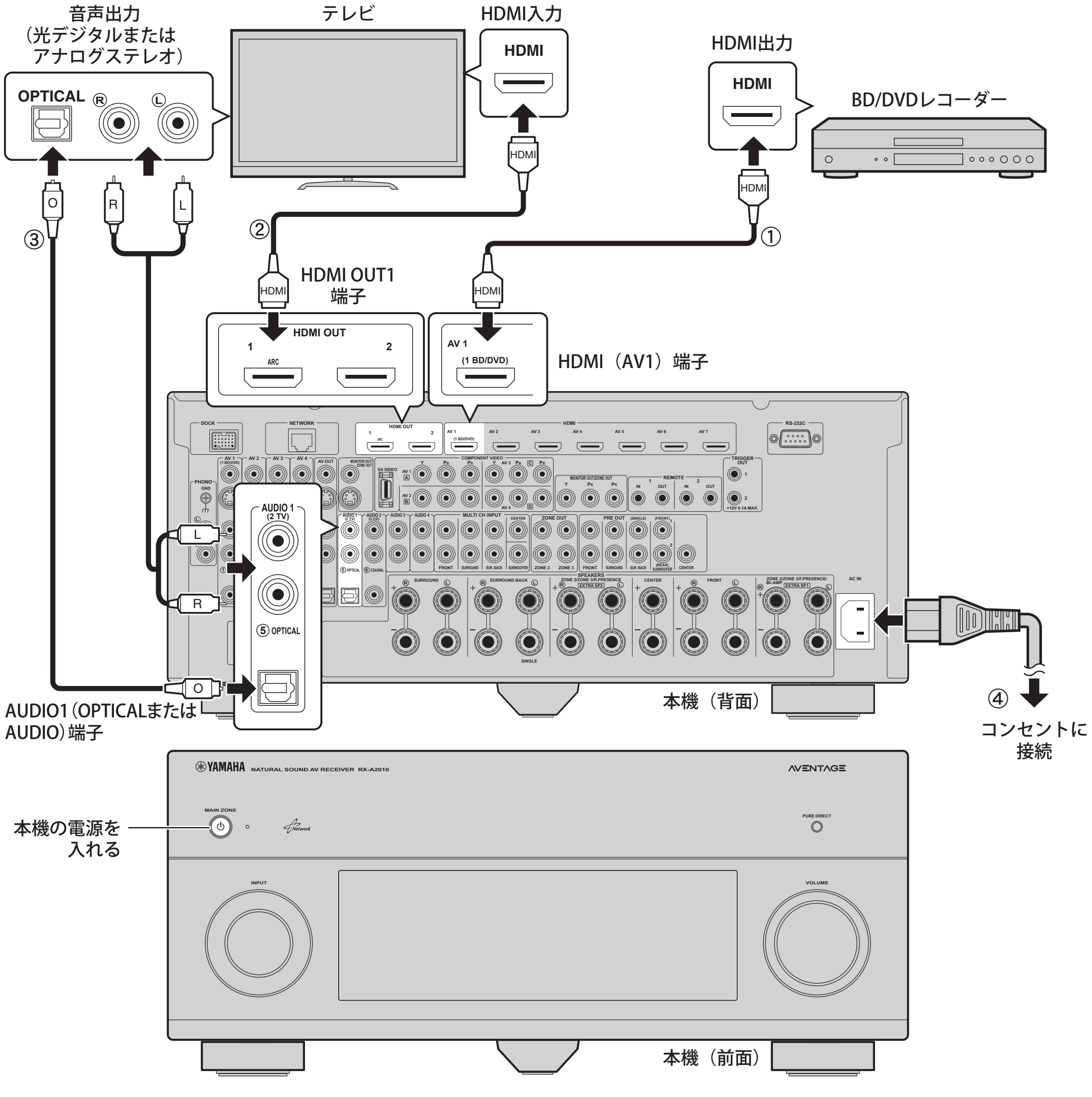
5 サブウーファー（SW）を
SUBWOOFER（1）端子に接続する。



サブウーファー（SW）の接続には、モノラルピンケーブルを使います。



4 外部機器を接続する



1 外部機器を本機に接続する。

① HDMIケーブルでBD/DVDレコーダーと本機を接続する。
HDMIケーブルでBD/DVDレコーダーとテレビを直接接続している場合は、テレビ側からケーブルを取り外して、本機に接続してください。

② HDMIケーブルでテレビと本機を接続する。

③ 光デジタルケーブルまたはステレオピンケーブルでテレビと本機を接続する。
この接続によりテレビ音声を本機で聴くことができます。オーディオリターンチャンネル（ARC）対応のテレビをお使いの場合は、この接続は不要です。

④ 付属の電源コードを本機に接続し、電源プラグをコンセントに差し込む。

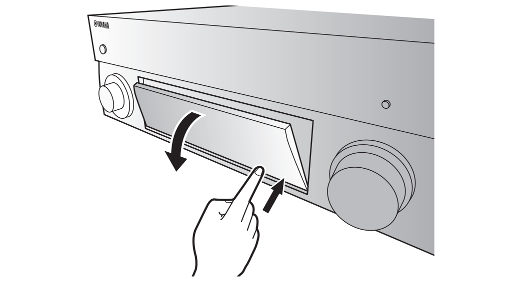
- ラジオのアンテナや、ほかの機器を接続する場合は「取扱説明書」の「準備する」（15 ページ）をご覧ください。

2 本機、テレビ、BD/DVDレコーダーの電源を入れる。

3 テレビのリモコンを使って、テレビ側の入力を本機からの映像に切り替える。

これで接続は完了です。次ページでスピーカー設定の自動調整を行ってください。

前面カバーを開く



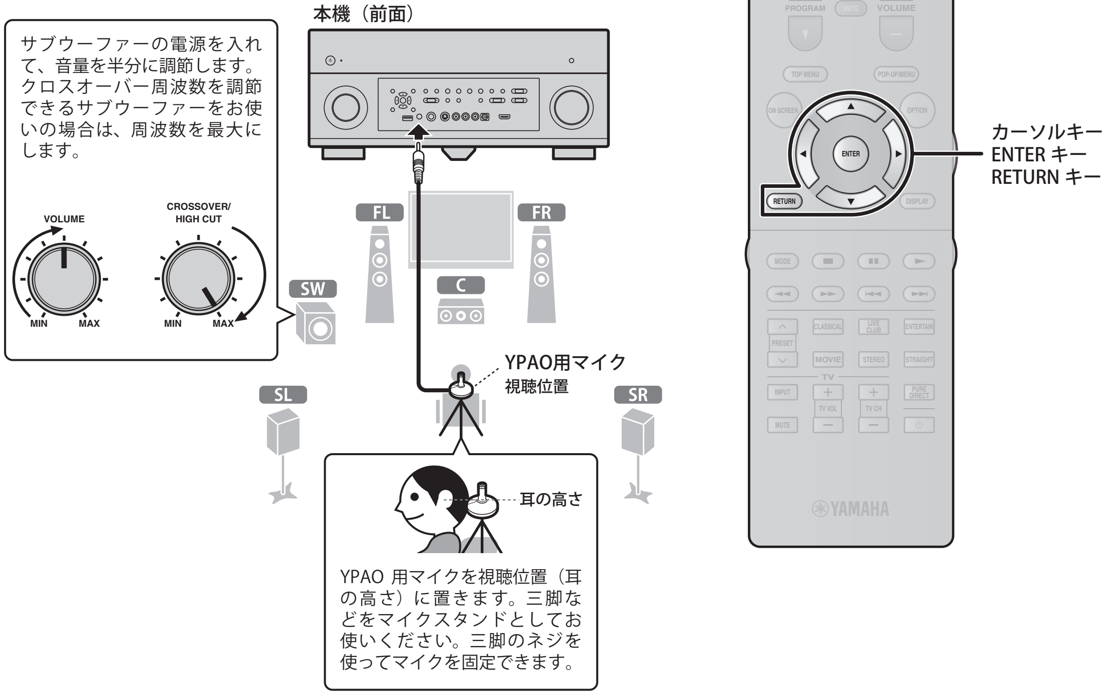
カバーの下側をそっと押す。

5 スピーカー設定を自動で調整する（YPAO）

付属のYPAO用マイクを使って、スピーカーの接続や視聴位置との距離を検出し、音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整します（YPAO：Yamaha Parametric room Acoustic Optimizer）。

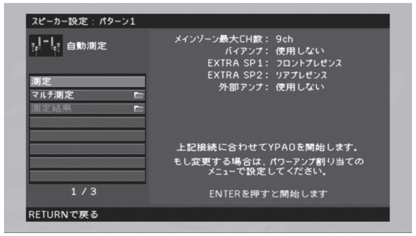
- 測定中は大きな音が出力されます。小さなお子様がいらっしゃる場合は十分にご配慮ください。また、ご近所への迷惑とならないよう夜間の使用は控えてください。
- 測定中は音量を調節できません。
- 測定中は部屋を静かに保ってください。
- ヘッドホンは接続しないでください。
- オートスタンバイ（自動的に電源を切る機能）対応のサブウーファーをお使いの場合は、該当機能を無効にしてください。
- 測定中は部屋の隅に移動するか退出して、スピーカーとYPAO用マイクの間を遮らないようにしてください。所要時間は約3分です。

YPAOを始める前の準備



1 YPAO用マイクを前面のYPAO MIC端子に接続する。

テレビに次の画面が表示されます。



- 操作を中止する場合は、測定前にYPAO用マイクを取り外します。

2 測定を始めるには、カーソルキーで「測定」を選び、ENTERキーを押す。

10秒後に測定が始まります。

測定が終わると、テレビに次の画面が表示されます。

- エラーメッセージ（E-1など）や警告メッセージ（W-2など）が表示された場合は「取扱説明書」の「エラーメッセージ」（49 ページ）または「警告メッセージ」（50 ページ）をご覧ください。
- 警告メッセージ「W-1：SP接続逆相」が表示された場合は『「W-1:SP接続逆相」が表示された場合』（次ページ）をご覧ください。

3 カーソルキーで「保存/キャンセル」を選び、ENTERキーを押す。

4 カーソルキーで「保存」を選び、ENTERキーを押す。

5 YPAO用マイクを本機から取り外す。

これでスピーカー設定は完了です。

> YPAO用マイクは熱に弱いため、高温になる場所（AV機器の上など）や直射日光が当たる場所を避けて保管してください。

「W-1:SP接続逆相」が表示された場合

以下の手順でスピーカーの接続を確認してください。
スピーカーの種類や設置環境によっては、正しく接続されていても警告メッセージ「W-1：SP接続逆相」が表示されることがあります。

① カーソルキーで「測定結果」選び、ENTERキーを押す。
② カーソルキーで「結線確認」を選ぶ。
③ 「逆相」と表示されているスピーカーのケーブル接続（＋と－）を確認する。

正しく接続されている場合：

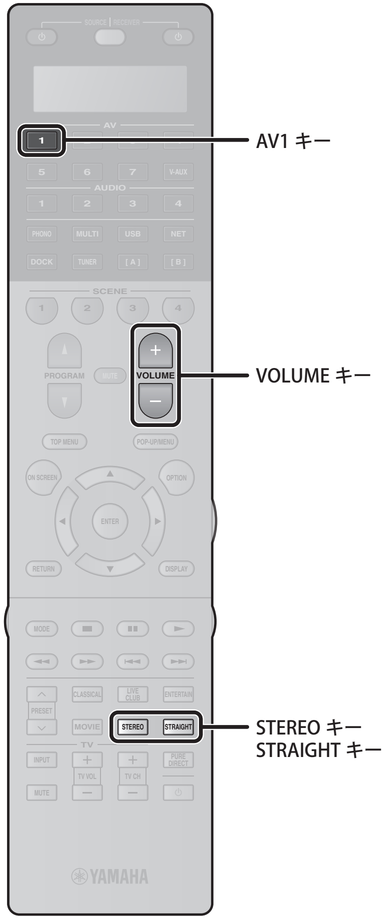
測定結果をそのまま保存して問題ありません。
RETURNキーを押してから、手順3以降を実行してください。

間違って接続されている場合：

本機の電源を切ってからスピーカーケーブルを接続し直して、もう一度YPAOを実行してください。

6 BD/DVDを再生する

実際にBD/DVDを再生してみます。
サラウンド感を体感するために、マルチチャンネル音声（5.1ch以上）が収録されているディスクの再生をおすすめします。



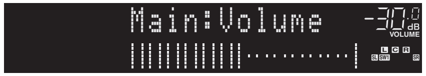
1 AV1キーで本機の入力を「AV1」に切り替える。

2 BD/DVDレコーダーでBD/DVDを再生する。

3 STRAIGHTキーを繰り返し押して「STRAIGHT」を選ぶ。

- 「STRAIGHT」（ストレートデコード）を選ぶと、ディスクに収録されている各チャンネルの音声が各スピーカーからそのまま出力されます。したがって、9.1チャンネルシステムで5.1チャンネル音声を再生している場合、サラウンドバックスピーカーとフロントプレゼンススピーカーからは出力されません。すべてのスピーから音が出るか確認するには、STEREOキーを繰り返し押して「9ch Stereo」を選んでください。

4 VOLUMEキーで音量を調節する。



これで5.1または7.1チャンネルシステムを設置して、本機でBD/DVDのサラウンド音を再生するまでの手順は完了です。

音声がサラウンドにならない場合

マルチチャンネル音声を再生してもフロントスピーカーからしか音が出ない

BD/DVDレコーダー側のデジタル音声出力設定をご確認ください。
PCMなど、常に2チャンネルで出力する設定になっている可能性があります。

音が出ないスピーカーがある

「取扱説明書」の「故障かな？と思ったら」（131 ページ）をご覧ください。

さらにこんな機能も！

ほかにもたくさんの機能があります。

別冊の「取扱説明書」をご参照のうえ、本機の性能を十分にご活用ください。

BD/DVDレコーダー以外の機器を接続する（34 ページ）

CDプレーヤーやレコードプレーヤーなどのオーディオ機器、ゲーム機やビデオカメラなどさまざまな外部機器を接続できます。

好みのサウンドを選ぶ（54ページ）

映画、音楽、ゲーム、スポーツ番組など、視聴する内容に合わせてお好みの音場プログラム（シネマDSP）やサラウンドデコーダーを選べます。

iPodの曲を再生する（62 ページ）

iPod付属のUSBケーブルや、オプションのヤマハ製iPodドックまたはiPodワイヤレスシステムを使って、iPodの曲を本機で再生できます。

- **FM/AMラジオを聴く（59 ページ）**
- **USB機器の曲を再生する（69 ページ）**
- **パソコンの曲を再生する（72 ページ）**
- **インターネットラジオを聴く（75 ページ）**

詳しくは「本機でできること」（6 ページ）をご覧ください。

ヤマハ株式会社

© 2011 Yamaha Corporation Printed in Malaysia WY52030-1